

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
46	川崎市立金程中学校	金子 清

学校教育目標	今年度の重点目標
知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かで、社会性に富んだ、たくましい生徒を育成する (1)自ら考え、創造し、正しい判断力と実行力のある人 (2)礼儀正しく、心豊かで思いやりのある人 (3)強い意志をもち、責任感と忍耐力のある人 (4)心身ともに健康で明るい人 (5)広い視野に立つ国際性豊かな人	学校経営目標達成のため、次の重点課題に取り組む I-心と体の調和のとれた生徒を育成し、よりよく生きるための生きる力を育てる II-授業改善に取り組み、生徒一人ひとりに確かな学力を身につけさせる III-教育活動全体を通じて、主体的に判断し、行動し、学ぶ力を育成する IV-家庭・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する V-働き方改革の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
I 自尊感情の涵養と他者理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を充実させ、生徒への丁寧なかかわりを通じて、登校しぶりや不登校傾向の生徒、他者のかかわりが苦手な生徒への丁寧な対応を心がけ、「誰一人取り残さない教育」の実現を図る。 ・「共生＊共育プログラム」を計画的に実践し、自尊感情を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に日常から生徒に寄り添い、生徒の変化に気を配ることを心がけ、適切に対応できた。年間3回の教育相談の実施の重要性を再認識し、時間確保するために実施方法を工夫した。 ・「学びの多様性」を教職員とともに共通理解を図り、学習室の利用、家庭訪問や放課後登校、リモート授業、スタディサプリ等、個々の実情に合った対応を行うことができた。また、外部機関とは効果的に連携することができた。 ・「かわさき共生＊共育プログラム」やGIGA端末を利用し、プログラムを計画的に行った。効果測定では、日ごろ見落とされがちな生徒の言動に注意できるよう、生徒把握の一助になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員一人一人の生徒理解に関するスキル向上を目指し、校内研修を行う。 ○今年度は、学年主任、支援教育CO、生徒指導担当、養護教諭、学習室担当教諭を中心に、不登校生徒や学習室利用生徒等の情報共有が十分に図られた。次年度は、SCと密な連携が図られるよう、教職員と共有し、指導に役立てる。
I 生命(いのち)、心の教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの大切さ」や人命及び人権尊重教育を充実させ、いじめや暴力をゆるさない環境づくりに努め、「思いやりの心」、「生命(いのち)を大切にする心」を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権移動教室」や「いのちの講演会」を開催し、また、「性の多様性プログラム」に取り組み、生徒のみならず、教職員の人権意識の醸成につながった。 ・区役所と連携し、HUGの体験や、「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」の取組等を日常の授業に取り入れることで、生徒が「いのちの大切さ」を理解し、また、人権尊重の意識を醸成することにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、予定していた講演会をすべて実施できた。次年度は、障がいへの理解や差別をテーマにした講演会を実施したいと考える。また、人権尊重やいのちの大切さについては、継続的に取り組んでいく。
個に応じた指導、特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導の充実、特別な配慮を必要とする生徒への支援を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級に在籍する支援を要する生徒の共通理解と個々に合った「取り出し授業」や機会を捉えた「入り込み支援」等を行うことで、一定の成果が出ている。支援教育COや学習室担当教諭や教育ボランティア、2名のサポータの協力を得て、今年度は多くの機会をつくることができた。 ・巡回相談を利用し、通常学級での生徒理解と支援について、効果的に活用できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○巡回相談での見取り等が、学校全体で十分に共有されるよう、研修の機会について検討していく。 ○学習室利用生徒のニーズが多岐にわたっているため、生徒や保護者のニーズを整理しながら、来年度の運営にあたるよう支援体制を整える。

II	「主体的・対話的で深い学び」の実践	・「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る。	・夏季休業中に、川崎市学習状況調査の教科ごとの分析及び学年ごとの共有を図った。学習指導要領の理解、評価計画については、各教科で研修を重ね、教員どうしの理解が深まった。 ・生徒の学びに向かう姿勢、自己調整力の伸長を図るために、「学習日」を設定し、生徒が主体的に学習に取り組む機会を設定している。昨年度以上に参加率は向上しているが、教師の願いと生徒のニーズが合っているか、さらなる検証が必要である。	○「主体的・対話的で深い学び」を実現するための努力と、その学びの効果的かつ適切な評価となるよう、研究及び研修を継続して進める。
	適切な評価の研究	・学習評価の場面や方法を工夫し、評価計画を立て、客観的かつ生徒にとって分かりやすい評価を行えるようにする。	・学校評価アンケートの結果によると、生徒、保護者ともに「先生は、学習状況に対しきちんと評価している」と回答している割合が、昨年度よりもかなり向上している。今後も、機会を捉えて指導のねらいと評価の観点、評価の意味等を生徒や保護者に丁寧に説明していく。	○各教科内で年間指導計画を精査し、指導目標と評価計画の整合性を図る。特に、単元計画をしっかりと立て、見直しをもって授業を進める。 ○次年度も引き続き、校内での学習指導要領の評価についての研修を行う。
III	生徒が主体的に参加できる活動の推進	・生徒会活動や学校行事において、生徒の意見を尊重し、生徒が主体となって活動し、充実感を得られる場面をつくる。	・学校評価アンケートでは、「行事に積極的に参加した」と生徒は答えている。体育祭や文化祭の在り方を工夫し、生徒を主体とした活動ができ、生徒も満足感を得られた。今年度は、「文化祭・合唱コンクール」の在り方を検討し、同日開催で実施したが、生徒の負担感の軽減につながったと同時に、教職員の働き方改革の視点でも、大きな変革となった。	○昨年度に引き続き、「校則の見直し」をはかっているが、今年度は『子どもたちとともにつくる学校生活のルールや約束』の視点から、自らの学校生活を振り返る機会を設定している。来年度中には、一定の成果を掲げることができると想定している。
	健康教育、安全教育の推進	・年間を通じて、主体的に学ぶ健康教育、安全教育の推進を図る。	・健康教育では「熱中症予防」「食育」「薬物乱用防止教室」「いのちの大切さ」「多様性を学ぶ」等のプログラムを実施した。また、各学年ごとに、HUG学習を体験し、防災意識の醸成を図った。 ・「総合的な学習の時間」において、各学年の共通テーマがSDGsであることから、さまざまな場面を捉えて学習と報告がなされている。	○健康教育のプログラムについては、その年の生徒の実態に即した内容を吟味する。 ○防災教育・減災教育訓は、生徒たちにとって自分事となるように、一層の啓発に努める。 ○HUG学習については、学年ごとの設定ではなく、地域ごとの異年齢集団による学習となるよう、来年度は計画の段階から検討する。
	体験活動の充実	・体験的な活動を通じて、「キャリア在り方・生き方教育」を推進する。	・今年度は、久しぶりに職場体験を実施することができた。 ・今まで使用してきた、本校独自の「Myメモリー」を利用し、キャリア・パスポートの資料づくりに生かした。	○継続して、本校に合ったキャリアパスポートの作成を進めていく。 ○学習指導要領が示す「総合的な学習の時間」と特別活動の趣旨を吟味し、本校の実態に即した計画を立てる。
	自己表現活動の充実	・体験活動の話し合いや発表の場を通じてプレゼンテーション能力の育成を図る。	・学校評価アンケートでは、「自信をもって発言や行動ができる」という問いに対する生徒の回答については、「できていない」と答えている生徒の割合も一定程度いることから、「表現力」「プレゼン能力」の充実に、さらに力を入れて指導する必要がある。	○プレゼンテーション能力を高めるように、特別活動や「総合的な学習の時間」だけではなく、各教科でも能力育成のための方法を検討する必要がある。

IV	家庭や地域との積極的な連携及び校内活動の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・教職員が地域活動へ積極的に協力、参加する中で、地域の人的・物的資源を掘り起こし、教育活動への地域の協力を得る機会をもつ。 学校だより及び各種通信やHP等を通じて、情報発信を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア生徒が、こども文化センターや老人福祉センターでのボランティア体験やフラワーキャンペーン、異年齢交流イベントに参加し、地域とのふれあいの場として、貴重な体験活動となった。 ふれあい体験教室が久しぶりに開催され、貴重な時間を共有することができた。 学校の広報については、昨年度の学校評価の保護者アンケートでは、十分とは言えなかったが、今年度の結果は、十分に理解されていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後もホームページの更新を定期的に行い、月の行事予定や年間計画の変更を家庭・地域へ十分に広報していく。 ○学年だより、学校だよりは、計画的な発行を心がけ、学校の教育活動を発信していく。
	学校運営協議会の円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を円滑に運営し、改善提案等を的確に把握し、より良い学校運営に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校及び高校での授業参観や意見交換を行うことができ、有意義な時間を共有できた。 協議会の委員の方々からは、小中学校の学校運営に関して、大きな理解をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や地域の情報を共有しながら、児童・生徒が9年間で積み上げていく学びや育ちについての意義を理解し、特色ある教育課程の編成など、自主的な学校運営を図る。 ○今後も、機会を捉えて学校運営協議会を開催していく。
	小・中及び高校との連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観、行事等での交流を通じて、小中及び高校との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、小学校6年生の体験入学、夏祭り、ふれあいフェスティバル等での交流を行うことができた。 ふれあい体験教室では、中高の連携もあり、小学校も高校との連携が実現できた。 今後は、小中高が一堂に会して、イベント等を実現できる方法を模索していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観や各種行事、部活動体験を通じての児童・生徒が交流し、小中高の連携を図っていききたい。
V	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の精選や会議の見直しを図り、業務改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ノ一部活デーに会議等が入ってしまい、活用が十分できなかった。 退勤時刻についての改革を進めたが、教職員間の意思の疎通が十分に図れず、在校時間等の減少にはつながらなかった。 ペーパーレス化については、かなり進んだと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度も、業務内容の精選や会議の見直しを行い、時間外勤務を減らすように努める。また、前後期に一回ずつ、計画年休の取得を促していきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○落ち着いた学習に取り組み、学習や部活動でも様々な成果を上げている。安心して学校生活を送れている生徒が多い。アンケートからは、概ね学校に対して好意的な回答が多いのは良い傾向である。</p> <p>○GIGA端末の活用は十分であり、さらなる効果を期待したい。</p> <p>○今年度は地域施設へのボランティア活動等も再開し、地域の方とのふれあいも増え、感謝される活動となっているので、次年度以降も行ってほしい。</p> <p>○生徒が自信をもって発言・行動できる割合が増えてはいるが、機会を捉えて向上に努めてほしい。</p>	<p>○生徒のニーズに合わせて、学習室の利用が増えている。保護者からの相談への対応や、登校へのきっかけづくりの場と、多様な学びの実現の場の両面から、今後も、個々のニーズに合った入り込み支援や取り出し授業などを行うとともに、外部機関との連携を密にして進めていく。</p> <p>○金程中学校区学校運営協議会が発足して一定の時間が経過したが、今後も委員の方々の意見や地域のニーズ、学校発信の学校経営を進めていきたい。</p> <p>○授業改善や評価の在り方への研究を進めてきたが、今後も生徒・保護者に「信頼される評価」の在り方について研究していく。</p> <p>○教員の働き方改革の視点から、行事等の見直しや短縮をおこない、行事の精選やスリム化を図っていく。また、行事にかかる準備時間の短縮も進めていく。○教員の働き方改革の観点から、通知表の前期所見を廃止した。今後は、ノ一部活デーの日の定時退勤や計画年休の取得も進めたい。</p>